

1 1 月定例教育委員会会議録

開催年月日	令和4年11月22日(火)
開催時間	午前10時00分
開催場所	青少年センター 3階 集会室
出席委員	浦上 教育長 村本 教育長職務代理者 水野 委員 岩井 委員 藤井 委員
出席職員	原田副教育長・小山教育監・太田次長・木下次長・川添教育政策課長・黒井学校教育推進課長・齊藤人権教育課長・山本学務給食課長・打抜教育センター所長・松田生涯学習課長・谷桂青少年会館長・岸安中青少年会館長

【浦上教育長】 それでは、11月の定例教育委員会を開催いたします。
本日の会議録署名委員に、藤井委員を指名しますので、どうぞよろしくお願ひします。

【浦上教育長】 10月の臨時教育委員会議の会議録の承認につきまして審議いたします。
委員の皆様、何か質疑等ございませんでしょうか。

【全委員】 異議なし。

【浦上教育長】 全委員、異議なしと認めます。
よって、10月の臨時会会議録につきまして、承認と決しました。

【浦上教育長】 続きまして、10月の定例教育委員会議の承認につきまして審議をいたします。
委員の皆様、何か質疑等ございませんでしょうか。

【全委員】 異議なし。

【浦上教育長】 ありがとうございます。全委員、異議なしと認めます。
よって、10月の定例会会議録につきましても、承認と決しました。

【浦上教育長】 それでは、教育長及び教育委員の報告に移ります。
まず、教育長報告ですが、お手元配付の資料のとおりでございます、ご確認をお願いします。

(教育長報告)

10月21日(金)	定例教育委員会
10月22日(土)	市こ連親善ソフトボール大会開会式
〃	9月市議会定例会本会議(第6日)
10月28日(金)	文教常任委員会協議会報告
10月29日(土)	八尾市家庭教育(ボーク重子氏)講演会&座談会
10月31日(月)	令和4年度市町村教育委員会研究協議会(長崎市)
11月1日(火)	〃
11月2日(水)	部長会
11月3日(木)	文化の日表彰式典
11月4日(金)	「少年を守る日」・「家庭の日」の駅前街頭啓発活動(近鉄八尾駅)
〃	令和4年度大阪府都市教育長協議会秋季研修会(富田林市)
11月5日(土)	八尾をきれいにする絵画コンクール表彰式(アリオ八尾)
11月6日(日)	八尾小学校創立150周年記念式典(来賓)
〃	第49回山畑区文化祭(来賓)
〃	市こ連親善ソフトボール大会閉会式(山本球場)
11月7日(月)	八尾の教育の向上に向けたアイデア発表会
11月10日(木)	八尾菊花ライオンズクラブ講演会
11月12日(土)	刑部小学校創立50周年記念式典(来賓)
〃	キッズスターアプリに関する冊子寄贈式及び座談会
〃	第61回八尾美術展表彰式
11月15日(火)	定例教育委員協議会
〃	八尾市市民憲章推進協議会発足50周年記念式典
11月17日(木)	令和4年度「中学生・高校生の税の作文」表彰式
11月18日(金)	ひゅうまんフェスタ2022(来賓)
〃	ICT推進校研究発表視察(南山本小学校)
11月19日(土)	第41回民族文化フェスティバル「ウリカラゲモイム」
11月20日(日)	第32回「八尾市中学校音楽祭」

【浦上教育長】 あわせて、何点か私のほうから報告をさせていただきます。

10月29日(土)です。八尾市の家庭教育講演会&座談会ということで、非認知能力を研究されているボーク重子さんにアメリカから来ていただいて講演会をしていただきました。そののち、私がコーディネーターをしながら座談会を行いました。当日、生涯学習センター「かがやき」の大研修室で行ったんですけども、予想以上に参加者が多くて230人、定員が200人でしたので、あの方方は別室にてオンラインで見てもらおうよということ、非常に、アンケートを見ている限り、すごくよかったとか、自分の今までの子育てを振り返りながら、こうしておいてよかったとか、また新たに、今小さい子をお持ちのお母さん方は非常に参考になったということで、ぜひともまたこういった機会があったらやっ

てほしいという、うれしいコメントもいただきました。また市長さんもその日、登壇もしていただいて、自分の子育ての話も楽しくしていただいて、市長さんも喜んでほりました。教育委員会としても、学校の中で非認知能力をやっぱり高めていくことが必要やと、私も思いましたので、これから来年度も、教職員の研修とかそういったことをどんどん取り入れながら非認知能力を高めていく、要するに数字ではあらわれない子どもたちのいいところを、どんどん伸ばしてあげたいと思っていますので、私自身も決意しましたので、そんなことをやったらおうということで、報告だけしておきます。

それから、11月3日（木）、文化の日の表彰です。表彰式典で、八尾の子どもたち、スポーツとか文化の面ですごく頑張っているね、日本で何位とか、あるいは近畿で1位とか、大阪で1位とか、そういった子どもたちが表彰されていました。本当に八尾の子どもたち、頑張っているなど感じました。

11月6日（日）です、八尾小学校創立150周年記念式典がございました。来賓で出席しましたが、式典自体は短かったんですけども、その後、私感動したのは150年の歴史があるなど、地域の中の学校やなということで、相当な地域の方々とかね、150周年に向けていろんな企画をされていました。太鼓台を用意して、それに乗るとかね、たたくとか、そういったことも企画したり、みこさんが八尾の天満宮から来たりとか、いろんな行事をしてくれてはって、楽しい1日を過ごされました。

それから同じ日ですね、市こ連の親善ソフトボール大会がございまして、これの閉会式です。昔と違ってやっぱり子どもがね、こども会に参加する数が少ないということで、チームもすごく減っていました。けども、決勝戦を、女子の部も男子の部も見学させてもらいましたけども、熱い試合で、いい試合やったなと思います。これからこども会活動も、どんどん子どもたちに積極的に参加してほしいなと思っています。また生涯学習課のほうもね、またそういうところで力を入れていただいて、青少年健全育成連絡協議会、育成協とタッグを組みながらお願いしたいと思っています。

それから、11月12日（土）ですが、刑部小学校の創立50周年事業がありました、式典がございまして、式典の後、小学校の2年生と3年生の児童が音楽発表してくれました。とてもかわいらしくて、一生懸命みんな歌っていました。それと音読ですね、小学校で音読しています、その音読の発表もあわせてやってくれはって、教育実践、すごいなと思いました。その後、帰り際、私もやったんですけども、餅つき大会やって、子どもたちも帰りに、お餅をもらって帰るという行事でした。

それから、11月19日（土）ですが、第41回の民族文化フェスティバル「ウリカラゲモイム」がございました。八尾は、小学校、中学校あわせて26の民族クラブがございまして。26の民族クラブの日頃の練習成果の発表の場であるということで、在日の外国の子どもたちとか、日本人も含めて、今まで習った踊りや歌を楽しく、一生懸命、披露してくれていました。感動しました。

翌日11月20日（日）、32回目の八尾市中学校音楽祭です。ウリカラゲモイムもそうなんですけども、2年間やっていなかった。久しぶりに中学校音楽祭が開催されましたけども、八尾には15中学校ありますが、昔はほとんどの学校が合唱の部で出演していたんですけども、やはりコロナの影響で練習ができないということで、今年は2校だけ参加していただきました。亀井中学と久宝寺中学でした。どちらも一生懸命、子どもたち頑張っ

ていて、マスクをしながら歌うんやけども、ほんまに声が出えへんねんけどね、子どもたち一生懸命やっていたということを、それを見ていてね、すごく感動したんですよ。ほんま、この子ら一生懸命頑張るとるなど。そやけど全員は出ていないと思うんですよ。学校へやっぱり行けていない不登校の子どもたちは出ていないやろうし、いろんな事情で出ていない子もいてんねんとか、いろんなことを想像しながら、その歌を聞いていました。教育委員会として、しっかり不登校の対策をしていかなあかんなどということもね、改めてそのときに感じたところでございました。

以上、10月の報告とさせていただきます。

【浦上教育長】 続いて、各教育委員さん方、いろんなところで見学されたりとかしてありますので、ちょっと報告してもらえますでしょうか。

【村本委員】 それでは、報告させていただきます。

10月26日（水）、14時30分から開催されました、本市の令和4年度スクールエンパワメント推進事業「学校図書を充実・活用するためのモデル校」八尾市立曙川中学校公開授業研究会と全体報告会に出席させていただきました。

それと11月1日（火）、午後1時よりズームを使ったオンラインで、令和4年度近畿市町村教育委員会研修大会に参加しました。

11月3日（木）文化の日、文化の表彰式典に教育委員4名、教育長も含めまして全員で出席させていただきました。

11月7日（月）、18時から八尾の教育向上に向けたアイデア発表会に参加しました。アイデア発表で、「起業の勧め」を発表された教育センター、吉田光秀氏の講評をさせていただきました。

以上、報告させていただきます。

【浦上教育長】 ありがとうございます。ほか、どうでしょうか。

【藤井委員】 11月1日（火）、令和4年度近畿市町村教育委員会研修大会のほうにも出させていただきました。オンラインだったんですけども、第1部の中室先生ですね、教育に科学的根拠をといるところの演題の講演と、第2部、山田先生のプロジェクト型保育の実践報告というもの、オンラインでしたけれども学ばせていただきました。特に、第1部のほうは経済学的にその教育を見るといったような視点で、本当に私の中では、考えたことのないような側面で、ですが非常に大切な視点だなということで、ずっと聞き入っておりました。そういったことで、たくさん感想もあるんですけども、これについての報告は以上です。あと昨日、11月21日（月）に、スマートスクールの実現モデル校ということで、安中小学校の公開授業のほうに行かせていただきまして、全ての学年とあと、支援学級の授業を見学させていただきました。非常に先生方も頑張っておられ、そして子どもたちも一生懸命タブレットを活用して授業する様子を、全ての学年を見させていただいて、それぞれの工夫をされていること、そしてまだまだ不慣れなお子さんもいらっしゃるんだなということも見えて、時間をかけて、来年、再来年にはどんどん進化したような

授業も見られるんだろうなと思いました。

以上です。

【浦上教育長】 はい、ありがとうございます。

【岩井委員】 10月26日（水）の午後、高安小中学校で、八尾市ICT研究推進校の最終報告会がありましたので、参加させていただきました。

10月29日（土）、教育長報告にもありましたが、ボーク重子さんの家庭教育講演会と座談会に参加させていただきました。

それから、昨日11月21日（月）、藤井委員からの報告もありましたが、大阪府のスクールエンパワメント事業で、スマートスクールモデル校になっている安中小学校で、1年目の公開授業研究会がありましたので、参加させていただきました。いずれの研究校も、来ていただいた方々から、高い評価をいただいていると思うのですが、とりわけ高安小中学校は、講師の、和歌山大学教授の豊田充崇先生から、学校全体のICT化のレベルとしては、日本教育工学協会J A E Tが行っている「学校情報化優良校」として、十分認定がもらえるレベルに達していると高い評価をいただきましたので、ご報告させていただきます。

以上です。

【浦上教育長】 はい、ありがとうございました。

【水野委員】 私も10月29日（土）の、教育長のほうからご報告いただきましたボーク重子さんの講演会、座談会に参加させていただきました。八尾の子育て支援のワンストップの「ほっぷ」が前面にPRできて、やっぱり私の周りでも結構うなずいておられる方がいて、本当にそういった意味ではよかったんじゃないかなと思います。今、教育長からありましたように非認知能力をやっていかれるということで、自尊心とかGRIPとかレジリエンスとかってあると思うんですけど、私のほうで、もしもお手伝いできることがあれば、お手伝いはさせていただきます。

あと、文化の日、それから八尾の教育の向上に向けたアイデア発表会も本当に若い指導主事の先生方、一生懸命発表いただいて感銘を受けました、ありがとうございました。

【浦上教育長】 はい、ありがとうございました。ちょっと2つ、抜けていました。1つは今、水野委員と村本委員もおっしゃいましたが、八尾の教育委員会の指導主事と主査はですね、元は学校の先生なんです。学校の先生が教育委員会に入ってきて、いろんな業務に携わっていますけれども、やはりいろんなことを日々、考えてほしい。私はそう思っているんです。というのは、自分の今の仕事だけじゃなくて、八尾の教育をどうしたら高められるねんと、それがひいては子どもたちにとってプラスになるようなことがあるやろうということで、アイデア提案を指導主事、主査さんをお願いしました。全員出していただいて、その中で6人の方にですね、当日プレゼンテーションしていただいて、そして市長さんも含めて、あと教育委員さんのほうから助言をいただいたということです。非常にみ

んなね、いろんなことを考えていてくれてね、将来 10 年後、20 年後ね、いろんなことを八尾の教育でやってくれそうな感じもしましてね、非常にうれしかった思いを、お話しさせてもらいました。

あと、ICTの推進発表の研究校の南山本小学校へね、18 日に行ってきたんですよ。で、何校か私は、4 月から見学はしている。けども、研究実践校やからどんなかなと思って、行ったんですよ。ちょうど 5 年生の理科の授業で、振り子の重さと長さの関係を実験して、その法則を導き出す、そんな 1 時間の授業やったんです。私がびっくりしたのは、もちろん理科室でやってはるねんけども、振り子を、10 グラム、20 グラム、30 グラムとかね、変えていきます。それからひもの長さも変えていく。それを子どもたちが班で、実験してるんですね。子どもたちね、喜んで、楽しく、積極的に授業に参加していた。それだけじゃないんですよ、私をもっと感動したのが、エクセルを使いこなしているんですよ、子どもが。びっくりしました。10 グラムの重さやったら何秒かかるか、例えば 12 秒かかったら 12 って、12.3 って入れる。で、その次に、12.5 とか入れていって、エクセルやから自動的に計算、平均を出すわけやね。そんなことをやるとか、あるいはそれを使って発表するとか、そんな授業でした。昔の授業と大違い。私、中学校の先生をしていたけれど、それだけやったら子どもたちに力つくやろうなって思いました。何の力がと言ったら、学習、学ぶことに対する姿勢やと思う。自分で学ぼうという気持ち、そんな授業をしていたら自然とついてくるなって、私思ったんですよ。昔はとにかく法則だけ教えて、これを覚えなさい、試験出るでって、そんな教育を昔はやっていました。せやけど、そんなじゃないですよ、今は。本当に先生がね、子どもたちが学ぶ力をつけるために、いろいろ努力してはる、オンライン、ICTを使ってやっている、すごい時代になってきたなということで、改めて私ね、ICTの魅力というのをね、感じたところでございますので、報告をさせていただきます。ちょっと時間とってすみませんでした。

{ 議案審議 }

【浦上教育長】 それでは、次、進みたいと思います。

請願の第 2 号「八尾市立小・中学校の子どもと、教職員実態に関する件」についての請願の件につきまして、審議をいたしたいと思います。

それでは、請願第 2 号「八尾市立小・中学校の子どもと、教育員実態に関する件」につきまして審議をいたしますが、先に請願の取扱いについて、お諮りさせていただきます。

令和 4 年 11 月の 8 日に提出されましたこの請願第 2 号につきましては、八尾市教育委員会会議規則及び八尾市教育委員会請願等取扱要綱に規定されております要件を満たしておりますことから、同規則第 25 条第 1 項の規定によりまして、その処理について、先の定例教育委員会協議会におきまして、教育委員の皆様方と、要綱第 7 条の規定の方法に基づきまして、ご協議をさせていただいたものでございます。

本日は、その協議のとおり審議を進めたいと思いますが、改めてその手順についてお諮りします。

本請願につきましては、請願事項の 1 と 2 をそれぞれ分けて審議をしたいと思います。教育委員会事務局から概要報告を受けたのちに、担当課の見解を述べさせていただきます、教

育委員の皆様とともに審議をしたいと考えております。

なお、同規則第 25 条第 2 項の規定に基づきまして、請願者の説明については、請願書に詳細に記載されておりますので、協議のとおり説明を求めません。

委員の皆様、よろしいでしょうか。

【全委員】 異議なし。

【浦上教育長】 はい、ありがとうございます。それでは、異議がないようですので、そのような形で進めていきます。

それでは、川添教育政策課長より請願第 2 号のうち、請願事項 1 の概要について報告を願います。

【川添教育政策課長】 ただいま議題となりました請願第 2 号「八尾市立小・中学校の子どもと、教職員実態に関する件」についての請願の件について、概要報告をさせていただきます。

本件は、令和 4 年 11 月 8 日に受理した請願につき、八尾市教育委員会会議規則第 25 条第 1 項の規定により委員会に諮るものでございます。

請願者は、服部氏と馬場野氏の連名での提出でございます。

請願内容につきまして、請願事項 1、八尾市立小・中学校の障がいのある子ども・不登校（登校拒否）・被虐待・非行・貧困問題・外国にルーツのある子ども・帰国子女など「特別な教育的ニーズ」を抱える子どもたちの実態とその背景を明らかにし、一人ひとりへの支援を充実することであり、請願理由につきましては、お手元配付の請願書のとおりでございます。

請願事項 1 の概要につきましては、以上でございます。

【浦上教育長】 はい、ありがとうございます。請願事項 1 についての見解を齊藤人権教育課長から説明願います。よろしく願います。

【齊藤人権教育課長】 まず請願事項 1 につきましての見解を申し上げます。

まず、昨年度の八尾市の調査結果についてであります。不登校につきましては、小学校で 139 名、中学校で 298 名、またいじめ認知件数が小学校で 2, 420 件、中学校では 247 件でございました。

これらの状況と課題におきましては、学校現場とは校長会をはじめ、いじめ・不登校対策研究委員会などの教職員研修において共有を図っているところでございます。また、父母保護者・市民に共有するようにとのことではありますが、各学校において当該保護者と連携を図りながら対応しております。

次に、子どもたちの実態をリアルに集約・把握することについてであります。各学校現場におきましては、学期に一度の学校生活アンケートをはじめ個別面談等、さまざまな機会をとらえて適切な実態の把握に努めているところでございます。また、その結果を踏まえ、傾向を把握分析し、定例教育委員会等において課題や具体的な対策について議論を

進めるとともに、学校現場とは校長会をはじめ教職員研修等において、父母保護者とは各学校による家庭訪問や懇談等にて課題や対策の共有に努めているところです。また、市民に向けては定例教育委員会の内容についてホームページに掲載するとともに、市政だよりにおいて年間数回、教育課題について掲載しております。

今後も引き続き「特別な教育的ニーズ」を抱える子どもたちの実態を適切に把握することに努めるとともに、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、課題の背景を明らかにし、学校と連携して一人ひとりへの支援の充実に取り組んでまいります。また、保護者や市民の皆様へ、学校での取組に対してご理解やご安心をいただけるよう、情報の発信に努めてまいります。

以上でございます。

【浦上教育長】 ただいま、請願事項1の見解、説明がございましたけども、委員の皆様方から質問等ありましたら、よろしくお願ひします。

【水野委員】 ご説明ありがとうございます。今、人権教育課長のほうから八尾の不登校の数を教えていただきました。不登校に関しては長期欠席が40万人を超えて、不登校が20万人を超えているという全国的な課題もあり、また教育機会確保法という法律があって、必ずしも不登校の子どもを学校に戻すということが第一の目的ではなくて、不登校の子どもの進路を保証していく、生き方を支援していくということで、法律もできて、その方向での支援というのが検討されていくと思うんですけど、全国と比べて八尾市の状況というのはどのような状況なんでしょうか、教えてください。

【打抜教育センター所長】 八尾市の不登校の児童・生徒の状況につきまして、お答えいたします。

八尾市の不登校児童・生徒数についてであります。全国と増減率を比較いたしますと、小学校は全国では28.6%の増、八尾市では約24.1%の増となっております。中学校では、全国では23.1%の増、八尾市では約13.3%の増となっており、いずれも増加はしておりますが、八尾市におきましては小中学校とも全国の増加率よりは抑えられている傾向でございます。

【水野委員】 ありがとうございます。学校に行きたくても行けない子どもさん、一人ひとりを見てみると、一人ひとり非常に深刻で、支援していかなくゃいけないんですけども、増加率ということで見ると、全国よりは少ないということで、よく分かりました。ありがとうございます。

【浦上教育長】 ほか、どうでしょうか。

【岩井委員】 文部科学省が毎年行っている問題行動・不登校調査の2021年度分の結果については、今回は公表の翌日の10月28日の朝刊の一面トップに、非常に大きく記事が出ておりました。さらに、その見出しが「小中不登校最多24万人、2割増」という非常

にインパクトのあるものでしたので、私は、八尾はどうなんだろう、大丈夫かなと心配された方も多くいらっしゃったのではないかと考えております。

それで、この教育委員会会議でも丁寧に報告していただいている部分もあるかと思いますが、見えていないところでの動きもあるかと思っておりますので、不登校についてどのような対策や対応をしておられるのか、詳しく具体的にお話ししていただけたらなと思っております。また、リアルな実態を把握するために、先ほどの見解の中にもありましたけれど、もう少し具体的に、教育委員会としてどういう把握の仕方をしておられるのかなども教えていただけたらと思っております。

【浦上教育長】 はい、ありがとうございます。打抜所長、教育監ですね。お願いします。

【打抜教育センター所長】 八尾市におきまして、不登校児童・生徒に対する支援についての状況でございますが、八尾市におきましても不登校の児童・生徒は急増しておりますので、全国の不登校児童・生徒の人数が急増しているのと同様に、課題として捉えております。

そして、不登校支援を急務としているところから、八尾市におきましても今まで教育相談、それから教育センターにおきまして教育支援センター「さわやかルーム」の取組等も進めてまいりました。あわせて今年度、10月からオンラインを活用した不登校支援、教育センターが中心となりまして行っているところでございます。そして、子どもたち一人ひとりの課題、状況はさまざまですので、子どもたちの状況に応じた支援を行うことができるようにということで、大学連携を生かしまして学生をほっとはあとサポーターという形で、子どもたちに寄り添って支援ができるような体制づくりも進めているところでございます。実際に市内の公共施設等で不登校の子どもたちに寄り添うことで、子どもたちが元気になっていくという状況も伺っております。

学校のほうにおきましても、別室対応やオンラインを活用した対応と、不登校の未然防止、それから早期発見、早期対応につきましても、対応を進めているところでございます。

【浦上教育長】 はい、ありがとうございます。教育監、どうぞ。

【小山教育監】 リアルな状況の把握につきましてですが、まず今年度に入りまして教育長、着任されたところから不登校をしっかりと対応しなければいけないということで、教育長自ら学校訪問をされたり、子どもたちの居場所、校内にある居場所を見られたりということで、学校の状況に合わせてアドバイス等もされてこられました。私もまた同じころですが、しっかりと各校を回らせていただきながら、不登校の状況であったり、いじめであったり、学校の課題を把握するという中で、こういうことをやったらどうでしょうかというアドバイスもしております。

先日も、校長面談を行いまして、その後の不登校の状況であったり、いじめの状況であったりということ、教育長と私とで把握しながら、各学校の状況に合わせて、できるだけアドバイスができたらなというところで、タブレットの活用は不登校にも使えるということであったり、支援教育においても最近、すごくタブレットの活用によって分かりや

すい、個別に合わせた指導ができるというあたりも校長面談の中で、校長とやりとりをしながら進めているということで、実際、校長から現状を聞き、それに合わせた指導支援という形で、今も進めているところでございます。

【浦上教育長】 今、報告がございましたけども、本当に不登校の子どもたちが、やっぱり増えている傾向をとにかく食い止めなければならない、子どもたち一人ひとりに明かりを見つけてあげたいということ。だから、教育機会確保法があるけども、その一時は学校に行かなくていいよ、休憩しなさい、休憩している間に社会的自立や将来の展望を何か知らんけどつかもうやというのが、あの法律の趣旨やと思うんですね。で、やはりそういうことも学校現場の方々、校長先生をはじめ、みんなそれをまず知ってくれと。何でもかんでも学校って、学校に行きたくないのに学校へ行けというと、またプレッシャーがかかります。そういうのではあかんやろうと。だから、さっき教育監が言ったけども、その一人ひとりのニーズ、思いに寄り添いながら、どう対応していくのかが一番大事やでと。学校に今、不登校 20 人いてやったら、20 人、一人ひとりをちゃんと見なさいと。どんな背景があって、そしてどんな理由があって、理由というのは難しいですよ。不登校の子に対してね、何で行かれへんねんって、分かりませんという子も多いわけです。けども、そういった子どもたちの気持ちをね、しっかりと汲んであげてほしい。みんなつかんでほしい、20 人ともつかんどいてやということを、私は校長さん方に言っているんですよ。そうやったら、どんどん変わっていくのかなと、私はそういうふうに思っていますのでね。私も事務局のトップですから、あえて発言させてもらいました。

ほか、どうでしょうか。この件に関して。

【藤井委員】 私は保護者の立場なので、やっぱり不登校のお子さん自身を支援することもすごく大事なんだけど、その保護者の皆さん、すごく不安に思われ、よそのご家庭、よそのお子さんがどうなのか、うちの子はほかに比べて、不登校の状況でどうなのかというところが分からなくて、不安に思われている方もきっと多いと思うので、今回、八尾市の子ども総合支援センターができたと思うので、そちらとも連携をして、保護者さんのフォローにも教育委員会としても務めていただければいいなと思いました。

以上です。

【浦上教育長】 ありがとうございます。ほか、委員さん方、どうでしょう。

【村本委員】 今までのいろんな報告を聞いておりました、十分やっていただいているんじゃないかなと思っております。それと、この背景などを公にしていき、あまりに話が広がってしまいますと、不登校とかそういうことを助長するようなことにもなるのではないかなと思いますので、私は今やられておられる程度でいいのではないかと感じております。

以上です。

【浦上教育長】 はい、ありがとうございます。ほか、どうでしょうか。

【水野委員】 外国にルーツのある子どもの話なんですけど、外国にルーツのある子どもを、日本社会に合わせようとする、もちろんすごい大事なんですけど、それと同時に、何か外国のルーツのある子どもから学ぶみたいなところというのは、さっき教育長のほうからありましたけども、民族クラブの発表会だとかも土日にあった、そういうことでもやっておられるんですかね、そこだけ、教えてください。

【齊藤人権教育課長】 ありがとうございます。水野委員おっしゃられたように、先日、民族文化フェスティバルがありました。この他にも各校にて、民族クラブによる発表会ですとか、そういったアイデンティティを養う取組を実施するとともに多文化共生の観点からも、さまざまな児童・生徒が交流をしていく中で、違いを認めあったり、互いの立場を尊重しあって、ともに生きる態度の育成を図ったりしているところです。

教育委員会としましても日本語指導が必要な児童・生徒に対しては、通訳ですとか言語介助員、あるいは日本語指導教員などを活用しながら、日本語の学習指導、懇談時の保護者の方の言語介助なども状況に応じて、さまざまに当該保護者との連携を図りながら、今後も本当に一人ひとりの児童・生徒の背景であるとか実態を把握しながら、より適切な支援が行えるように努めてまいりたいと考えております。

以上です。

【水野委員】 ありがとうございます。不登校の話も、それから外国にルーツのある子ども、帰国子女などの子どもたちも、個性を認めて、多文化共生ということであれば、請願を出された方と一緒にやっていくということがとても必要だと思います。現状では本当に八尾市はよくやっただいているなという感想を持ちました。

以上です。

【浦上教育長】 ありがとうございます。ほか、どうでしょうか。

【岩井委員】 私も請願者の思いと本当に同じような思いを持って、教育委員会は一生懸命頑張っていると思っておりますので、今後もしっかりと頑張っていていただくということをお願いして、この請願事項については不採択ということではないかと思っております。

【浦上教育長】 ほか、どうでしょうか。もう、特にはないでしょうか。

今、水野委員も岩井委員も、村本委員もですね、請願者の気持ちと私たち教育委員会事務局は、同じ思いやでということをおっしゃってくれはって、本当にうれしい気持ちと、そして請願者の皆さん方も本当にこうやって子どもたちのことを考えてくださり、すごいうれしいなど、今現在思っているところがございます。ただ、請願の採択、不採択どうするかということについては、各委員の皆さん方で決議をしてもらいます。よろしくお願ひします。

それでは、委員の皆様、これまでの見解の説明、そして質疑等を見て、包括的に捉え、

考えていただいて採決をお願いしたいと思います。

請願第2号のうち、請願事項の1につきまして、先ほどの委員からの質疑に対する事務局の回答にもありましたが、各担当課にて既に対策や、また取組を実施していますので、不採択とすることに異議ございませんでしょうか。

【全委員】 異議なし。

【浦上教育長】 全委員異議なしということで、請願事項1につきましては不採択とすることに決しました。

続きまして、川添課長より請願第2号のうちの請願事項2の概要について報告を願います。

【川添教育政策課長】 続きまして、請願事項2の内容について、概要報告いたします。

請願事項2、2022年度現時点での八尾市立学校の教職員の状況（定数どおり教職員が配置できていない・年度途中退職や病気休職など）を明らかにし、速やかに対応・改善すること。であり、請願理由につきましては、お手元配付の請願書のとおりでございます。

請願事項2の概要報告については、以上でございます。

【浦上教育長】 はい、ありがとうございました。それでは、木下次長のほうから、見解をお願いしたいと思います。

【木下次長】 失礼します。それでは、請願事項2についての、執行部の見解を申し上げます。

まず、令和4年度途中の退職者ですが、現時点では7名となっております。また、令和4年11月1日現在、本市立学校での長期の病気休職者等は21名となっております。病気休職者や産休者等を合わせた欠員については17名となっております。

教職員の欠員については、本市だけではなく全国的な課題であると認識しております。特に年度途中からの代替人材の確保について、非常に厳しい状況が続いております。欠員の解消に向けて、HPや窓口配架等による講師募集の周知であったり、大阪府教育庁や近隣の市町村教育委員会事務局、大学等の教育機関への募集依頼や連携、また学校との連携であったり、人事担当者による講師確保の取組など、これまでもさまざまに取り組んでいるところです。市だけではなかなか改善できない部分もございますので、国や大阪府等にも対応・改善を要望しておる状況です。

以上が、請願における見解でございます。

【浦上教育長】 ただいま、請願事項2の説明がございましたけども、委員の皆さん方、質問等ございませんでしょうか。

【岩井委員】 例えば、担任の先生が病気で、すぐ入院、手術を受けなければならなくなって、年度途中、急に休まれるというケースが出た学校は、本当に厳しい状況だということこ

とは、私も現場におりましたので、そのしんどさは非常によく分かります。そのような欠員になった場合に、教育委員会としてはできるだけ速やかにそのあいた穴を埋めるように、最大限努力していただいていると思うのですが、どのように努力していただいているのか、人事ということで、そのあたりが周りには非常に見えにくいところでもありますし、またそこがご苦労いただいているところでもあるかと思しますので、言える範囲で結構ですので、もう少し詳しく、そのあたりのお話を聞かせていただけたらと思います。

【木下次長】 講師の確保、講師任用についてのご質問でございます。八尾市のほうで、もちろん通年で講師の登録を受け付けております。先ほども申しましたが、定期的にホームページ等で新着として募集依頼をかけるとともに、大阪府にも講師の登録制度というのがございますので、八尾だけではエリアが限られますので府下全域の講師登録等の情報を共有させていただいて、そのリストの中から担当のほうに主に電話等で連絡をして、依頼をかけているという状況です。また、講師の欠員については、学校のほうでも危機意識を持っていただいているところがございますので、各学校のほうでもつながり等で声をかけていただいて、任用に至ったというケース等もございます。

そのような形で、日々募集に努めているところですが、新規の講師登録者の数というのは、なかなか伸び悩んでいる現状があるのも、また事実でございます。

以上です。

【浦上教育長】 それでよろしいでしょうか、岩井委員。

【岩井委員】 私はもっとご苦労いただいているんじゃないかなと思うんですね。電話はかけても、なかなか条件が合わなくて、大変な思いをされているんじゃないかなと思うのですが、そのあたりはどうなのでしょう。

【浦上教育長】 事務局から回答の前に、私のほうからいいですか。

今、人事の担当の指導主事は、毎日遅くまで勤務しています。何で勤務しているかって言ったら、お願いできませんかという電話ですよ。元教員の方にしか頼るところがないんです。それでも、条件に合わないので断念するというのを、毎日やっています。だから、本当にそういう人材がいたら、すぐにでも採用したいという気持ちなんです。木下次長、もし付け加えがあったらお願いします。

【木下次長】 ありがとうございます。登録者に対するアプローチというのは、こちらからですと、電話でアプローチをするということが中心になるのかなと思います。100件電話しても面接に至らないケースというのは多々あるのが現状ですので、また繰り返して1カ月に1度、お願いをさせてもらうような方がいたり、年度内に何度も、今はどうですかという形でお問い合わせをさせていただいたりというケースがあります。ただ、登録されている方のほとんどは、もう既にどこかで教職員としてお勤めされている、または他職に就かれているケースがほとんどですので、新規の開拓で募集はしておりますけれども、なかなか応募自体が少なく、大阪府としても危機感を持って取り組んでおられますので、い

いわゆるペーパーティーチャーと呼ばれる、今まで教員免許証は所有しておりますがお勤めされたことのない方へのアプローチや、私たちのところにそういうふうなお問い合わせがあった場合は、もちろん面接という形で役所に足を運んでいただいております。そういうケースがございます。全てが任用や登録に至るわけではございませんが、そういうふうな地道な努力を続けて、少しでも欠員の解消に努めているような状況でございます。

【浦上教育長】 はい、ありがとうございます。ほか、教育委員さん、どうでしょうか。

【水野委員】 大阪府の小学校においては、10年前だと講師を数年やってから採用に至るケースがほとんどだったんですが、教員採用試験の倍率が上がらず、講師の慢性的不足ということがあると思います。これは全国的な問題で、国としてどう考えていくかということと、それから、もう一つ。実は海外でも、教職員不足はありまして、例えばアメリカの場合、英語を話す国というのは、アメリカだけじゃないわけで、外国に教師を求めるケースは結構あります。しかし日本は、外国の方が日本語を話すということは、なかなか考えにくいので、海外に求めるということは難しいです。世界的にも教師不足ということがあって、さっきのいじめの問題もそうなんですけど、日本だけの問題ではないんですが、総合的に考えていかないといけないと思います。

多分、八尾市さんでも、初任者については指導教員がついて、本当に丁寧にやっただけというのとは、本当によく分かります。Z世代といわれる今の若い人たち、大学生の数が減っているということは、結局、全部の業種が人材難だと思うんですね。高齢化社会って、結局そういうことなんだと思うんです。その縮図の中で、教師がここまで深刻になっているということで、何とか頑張っていたいただいていることを、私も陰ながらどうか応援して、何とか八尾市につなげたいと思います。

以上です。

【木下次長】 倍率自体は、10月28日に大阪府の来年度採用の倍率が出ておりました。確かに2倍を切っているような科目、教科等もございますので、掘り起こしというところは、八尾市だけではなくてオール大阪で取組を進めていっている状況です。

それから、若い先生方が増える中で、どうしても年度途中に出産等でお休みされる方の数というのが増えてきている現状がございますので、そこが欠員につながっているケースもあるのかなと、こちらとしては考えております。

【浦上教育長】 あと、委員さん方、特にございませんでしょうか。

私は大阪府の都市教育長協議会に月1回出席していて、国に対する要望を毎年上げています。その重点項目の中に、結局どの市町村もそうなんですけども、いま空きがありますと。それも相当な数空いている市もあるんですね。それは一体何でやねんと言ったときに、根本的には国の基本定数というかね、そのあたりをもうちょっと考えてもらうことと、教員志向、教員になりたいという子を、育てていかなあかんということが、一番大きな根本やと思うんです。

だから、この請願者さんのお気持ちもよく分かるし、我々と一緒なんです。だから、

とにかくそういう状況にならないように定数改善などを求めていることだけね、委員さん方知っておいてほしいなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

【浦上教育長】 それでは、採決に入っていきたいと思います。先ほどと同じように、見解説明や質疑を行いましたけども、包括的に捉えて採決を採りたいと思います。

請願第2号のうち、請願事項の2につきまして、質疑に対して事務局のほうも回答しましたが、各担当課で既に必死になって対策を講じておりますので、この分については不採択とすることにご異議ございませんでしょうか。

【全委員】 異議なし。

【浦上教育長】 よろしいですか。全委員異議なしということで、2につきましても、不採択とすることに決しました。

{ 報告事項 }

【浦上教育長】 それでは、続きまして、報告事項に移らせていただきます。

報告事項①「いじめの重大事態事案への対応」につきましては、八尾市個人情報保護条例第14条第1号の当該個人の正当な権利利益を侵害するおそれがあると認められるため、公開可能な時期が来るまでは非公開とすべき内容となりますので、この報告については非公開とさせていただきます。委員の皆様方、いかがでしょうか。

【全委員】 異議なし。

【浦上教育長】 全委員、異議なしと認めます。

よって、本報告につきましては非公開とすることとさせていただきます。

議事の進行の都合上、この案件につきましては、他の報告等が終了した後に行いたいと思います。よろしくお願ひします。

傍聴の皆様方、すみません、ご退席お願ひしたいと思います。

(傍聴者退場)

(以下、非公開報告)